

サポセンニュースレター 2022年 蝸号



特集

p2-3

サポセンの設置検討から  
20年を迎えて  
当時から今、  
これからを語る

p4-6\_\_【サポセンの事業報告】

- 未来フェスタ
- 第6期 まつど地域活躍塾 公開講演会
- 協働事業サポート講座 2022

p6\_\_ サポセン新規届出団体

p7\_\_【ある日のサポセン】

活動中のケガや事故が心配！

p8\_\_【スタッフコラム】

できないことが増えると不幸なのか？



サポセン  
メルマガ登録はこちら！  
<https://bit.ly/3gf0dh6>



まつど市民活動  
サポートセンター

<http://www.matsudo-sc.com/>





# サポセンの設置検討から 20年を迎えて 当時から今、 これからの語る

今から20年前、2002年の6月に  
公募市民など62名による  
「松戸市パートナーシップ検討委員会」が始まりました。  
ボランティア・市民活動の支援施設である  
センターの設置に向けて活発な意見交換が行われ、現在につながっています。  
今回の特集では当時の委員会に携わり、これまで松戸の市民活動を  
けん引してきたお二人にインタビューしました。



岩崎秀高さん（写真右）  
小さいときにみた白頭巾やターザン映画の影響で強きを挫き弱きを助く生き方にあこがれる。1990年に定年退職し、社会に役立つ活動としてボランティアを目指す。2001年にNPO法人人材パワーアップセンターを立ち上げ、地域で何かやりたいと思っている人たちの思いや夢を実現する支援を始める。今もその延長線上で活躍中。

## お話を伺った方々

渡辺洋子さん（写真左）  
NPO法人子どもとまつどの前身、松戸子ども劇場に子どもが4歳の時に親子で入会。自主運営の醍醐味を体験したことから運営に関わり、1998年より理事長を務める。2002年に「市民と行政がともに汗を流す」のキャッチコピーにひかれ、松戸市パートナーシップ検討委員に応募。その他複数の市民活動団体の設立・運営に関わり活躍中。

## 松戸市パートナーシップ 検討委員会から20年

検討委員会はどんな雰囲気だったのですか？

岩橋さん…委員の熱意、熱気がすごかったですね。市民の側に、もっと意見を行政に反映させてほしいという欲求不満があったし、もっと松戸を良くしたいという人たちが集まって、毎週のように話し合っていましたね。

渡辺さん…委員会の期間が1年5ヶ月で、会議は150回以上でした。NPO法（特定非営利活動促進法）が1998年できて、活動する人たちは「これからどうしていこうか」と考えていた時期で、市民のNPOに対する期待も大きいと感じました。

岩橋さん…市民活動という言葉がまだ市民権を得ていなかった頃ですね。

当期待されたサポセンはどんな姿だったのでしょうか？

岩橋さん…思いを持った人たちの支え合いとつながりの場を作ろうというのが、委員みんなの思いでしたね。

渡辺さん…できるかできないかは別の提案として、例えば、飲食店が周りに少ないからテイルームがあると良いとか、宿泊できるというとか、活動資材を運ぶトラックを配置してほしいとか、色々なアイデアがでていました。

岩橋さん…基本には市民と行政を対等に、という気概がありました。最近では協働事業を含め、サポセンの事業が進むにつれて、市民活動が市民権を得てきたと実感しています。行政の中でも理解や協力が進んできた感触です。

渡辺さん…NPO市民活動見本市は、活動する皆さんに親しまれてきたイベントでしたが、市民活動をもっと多くの人に知ってもらうためにはどうしたらいいかと感じていました。それが、みらいフェスタが始まったことで、一気に市民に近づいたのは、大きなよい変化ですね。

(1)NPO市民活動見本市：開設当初から2014年度までサポセンで開催  
(2)みらいフェスタ：2012年から松戸駅周辺で開催（本誌p4参照）

## これからの松戸と サポセンのゆくえ

サポセンの現在の課題が「今の延長線上を飛び越えていきたい」というものです。そのためには何が必要だと思いますか？

渡辺さん…社会課題のジャンルの分け方が20年前と変わって、障がい者、子ども、高齢者などに分断されたままです。社会が変わっていない。その視点で言うと、SDGsは社会を丸ごと捉えて、一人ひとりの役割を問う考え方がよいと感じています。

岩橋さん…今で言うSDGsや市民活動の意味を考える場をサポセンは先頭を切って作ってきたし、これからも増やして分断を超え、多くの市民へ浸透させていけると期待しています。「まつど地域活躍塾」(以下、活躍塾)の卒業生もその役割を担っていますね。

(4)まつど地域活躍塾：サポセンの主催する8カ月間の連続講座（p5参照）

今期の活躍塾は過去最多の44名の受講生です。

岩橋さん…活躍塾は人材育成の場だから、卒業生の活躍の場もセットで用意できると良いですね。人材パワーアップセンターの知見をぜひ提供したいです。

渡辺さん…「サポセンに生まれ！」から「サポセンから出ていく」がキーワードになるのかもしれないですね。出張みらいカイギ、とかやりたいです。

(5)みらいカイギ：サポセン主催で毎年開催している協働を生むことをねらいとした対話イベント

もっと「地域の人で地域のこころを考える」仕組みを作るサポセンにしていきたいですね。

岩橋さん…検討委員会の時にも提案しましたが、「サポセンの地区センター」など拠点を増やせたいですね。地域間の連携も進められると考えていましたし、今も同じ考えです。



「サポセンの地区センター」など  
拠点を増やせたらいいですね。

岩橋さん

団体それぞれの20年、課題の変化とサポセンとの関わり  
お二人それぞれの団体の活動は、20年でどう変化しましたか？

岩橋さん…私が立ち上げた団体でも市全体でも高齢化問題が大きいですね。若い人たちの足を引っ張らないようにしたいですし、高齢者をもっと地域へ出やすくするために、高齢者が情報化に対応できるようにサポートしていく必要があります。

渡辺さん…元々会員制の団体だったのが、NPOとして対象を市内すべての子どもへとしっかりソフトしてきたのがこの20年の成果ですね。「宿題寺子屋」など、異なるテーマの団体とのコラボが生まれたのも効果的でした。高齢化は大きな課題だけれど、多世代や他団体と新しい関係を作っていくことを大切にしています。

(3)宿題寺子屋：2人の団体が実施した子どもの居場所

世代交代についてサポセンができることはありそうでしょうか？

岩橋さん…タブレット教室などを広げて行けたらいいですね。そういう視点では、サポセンのよろず相談やIT化応援はとても良い取り組みだと思っています。

渡辺さん…ここ数年、サポセンのコーディネーターが若返りしているのが何より良い傾向です。利用者や団体も若返りしやすくなり、居場所も多世代化している、その中で高齢者の経験や知識を活かしながら活動していけたらいいなと思います。

「サポセンに生まれ！」から「サポセンから出ていく」が  
キーワードになるのかも？



渡辺さん







サポセンの事業報告 2



まつど地域活躍塾  
MATSUDO CHIHIKI KATSUYAKU JUKU  
2022  
at 松戸市民劇場 & YouTube ライブ配信

公開講演会

第6期まつど地域活躍塾  
公開講演会

2022年5月24日(土)実施

第1部 基調講演 「人生100年時代の人生計画と幸福について」



第1部では藤原和博さんにご登壇いただき、多様な人がいる地域社会の中で、タテやヨコだけではない「ナナメの関係」があることで子どもが豊かに育つことや、コミュニケーション能力や情報編集力が身につくことなどをお話いただきました。藤原さんが学校長時代にも実践した「アクティブラーニング」の手法で、講演をただ聞くだけでなく、近くの2~3人でディスカッションして思考を拡張する体験をし、まさに情報編集力の重要性を実感。講演会は非常に活気あるものとなりました。

講師：藤原和博さん 「朝礼だけの学校」校長/教育改革実践家/都内初となる民間出身の公立中学校長を務めた

第2部 テマ「地域とつながる人生のススメ」  
松戸市小金原における地域づくりの事例発表

第2部では小金原九丁目町会に現役高校生役員が2人誕生したエピソード、小金原地区会街づくり部での取り組み、こがねはら子ども食堂の誕生からこれまでのお話、根木内小学校で開催された「おはよう子ども食堂」での朝ごはんの様子などをお話いただきました。町会役員となった高校生は、こがねはら子ども食堂に来ていた子どもが大きくなった姿。まさに地域で様々な大人が「ナナメの関係」で接する中で子どもが育ち、地域の担い手にまどなった事例です。

	地域人① <b>伊泉 寛之さん</b> 小金原地区 地区長
	地域人② <b>高橋 亮さん</b> こがねはら子ども食堂 代表/ まつど子ども食堂の会 代表
	まつど地域活躍塾OG(4期生) <b>元木 芳子さん</b> 認定NPO法人外国人の子どものための勉強会 文化ホール教室 担当

進行：阿部 剛  
まつど市民活動サポートセンター センター長



第2部はYouTubeでご覧いただけます  
(第1部は限定公開期間を終了しました)  
<https://youtu.be/vVu-d3KS7vM>

まつど地域活躍塾とは

住むだけの街を、人生楽しむ街に変える

まつど地域活躍塾は、松戸をより暮らしやすい街にするために、自分の経験やスキルを活かして地域で活躍していくキッカケを見つける連続講座です。昨年までに約130名が受講し、松戸市内の様々な団体等で活躍しています。今年度は44名の塾生を迎え、6月21日に始まりました。地域で活躍している実践者を講師に迎え、個人・グループワーク、実地体験を通して松戸市の地域の現状と可能性を学びます。

<http://www.matsudo-sc.com/works/mjuku2022>



市民劇場とオンライン配信のハイブリッド講演会



市民劇場では、配信のため多数の機材を駆使するコーディネーター!!

藤原さんにテーマを投げられ、お隣同士で話し合う様子

こどもは、みらい。2022  
みらいフェスタ

at 松戸中央公園

- 当日来場者数...約1200人 (関係者含む)
- 出展団体...33
- ブース...49 協賛企業...17

SDGsスタンプラリー



各ブースで遊ぶ(体験する)とその団体が目指しているゴールにスタンプを押してもらえ

17のゴール全部埋めるともらえる賞状!



午前中だけで20数名いました

松戸市緑推進委員会  
みどりのサロン部会



スーパ-紙とんぼの会



トンボも雨には弱いけど、来てくれるから元気張るよ、と金兼さん

向日葵太鼓



強い雨の中で水しぶきをあげながらの演技は圧巻!

パフォーマンスができなかった子どもたち、午後から遊びに来ようと思った皆さん、本当に残念でした。

また来年会いましょう!



ソーシャルディスタンスで(はい、ピース!)

世界には色々なあいさつがあるね

認定NPO法人外国人の子どものための勉強会



傘をさしてくれるパパなら怒られることはないかな



NPO法人さんま



どのおしごとしようかな? ...こどものまち

サポセンの事業報告 1

2022年3月26日(土)実施

みらいフェスタ

雨なんか、気にならないぜ!  
子どもたちが運営するゲームコーナー



探求型スクールC-Quest

開催日の1週間前にまん延防止等重点措置の適用の解除、という願ってもない状況での開催となりました。  
：当日は時折、強い雨に襲われながらも、受付には傘を差しながらの人の波が絶えることはありませんでした。

時折の強い雨により... 昼過ぎに雨で、やむなく中止... しかし、2時間で1000人近くの親子や子ども連れが遊びに来てくれました!

笑顔が少しでも増やしたいから... 今年もやったよ!

2022年3月

コロナ禍、まさかの3年目! 会場はそのまま、飲食再開、事前予約なしで開催

2020年3月  
突然ふってわいた新型コロナウイルス拡大で、無念の中止

2021年3月  
コロナ禍継続の中でできることを! と、松戸中央公園に会場を移し、飲食禁止、事前予約、人数制限の万全の対策で開催

ひろがれこがねおはなしのわ with りょうふんどうおはなしがい



子どもお話し隊。はじまるよー



2022年5月31日(火)実施  
協働事業サポート講座2022

岡山の先進事例から学ぶ「立場の違う人同士が手を取り合うコツ」  
松戸市が2008年から実施している「協働事業提案制度」  
そのサポート講座を、NPOや市民活動に携わっている方や  
協働事業に興味のある方向けに開催しました。

今回は、「協働のコツを学ぶ」として、岡山にて様々な社会課題解決のための調査設計、協働・コレクティブインパクトの仕組みづくり、組織設立と経営などに取組んでおられる、特定非営利活動法人岡山NPOセンターの石原さんをゲスト講師に、Zoomにて、岡山の協働の先進事例やその多様な取り組みの事例をお聞きしました。

後半は松戸市市民自治課から「協働事業提案制度」の紹介を行い、当センター長の阿部からは、この制度への申し込み提案書をつくるポイントが詰まったミニ講義をお話ししました。

参加の方からは、「民間と市が互いに得意なこと、できることを課題の解決のために持ち寄って共に働くことが、市民協働だとしっかり腑に落ちました」「石原さんのお話の中で、市民活動団体に必要な要素『継続するポイント』を知る事が出来て、大変役に立つと思いました。」などの感想が上がり、実りのある学びがたくさな得られた一日となりました。



※「協働事業提案制度」  
協働事業提案制度は、市民活動団体又は事業者の発想や手法を活かし、提案者と市が事業の企画から実施までを協力して行うモデル事業を募集する制度です。

(参考)松戸市ホームページ  
[https://www.city.matsudo.chiba.jp/kurashi/shiminkatsudou/kyoudou\\_machidukuri/teianseido/index.html](https://www.city.matsudo.chiba.jp/kurashi/shiminkatsudou/kyoudou_machidukuri/teianseido/index.html)

ある日のサポセン 第17話

活動中のケガや事故が心配!

市内で活動していると、悩んでしまうこともある  
活動中のケガ・事故への不安。  
今回は、そういったときに役立つ保険・補償制度をご紹介します。



1 松戸市市民活動総合補償制度 (松戸市 市民自治課)

市民活動団体(町会・自治会・NPO 団体等)が無報酬で公益性のある活動を行っている際に事故があった場合、補償金が給付される制度(平成 29 年 11 月 1 日より開始)。

- 町会・自治会で毎月行っている、近隣の公園での清掃活動
- 団体の活動に保険をかけたい(松戸市内を活動拠点としている団体)

<https://www.city.matsudo.chiba.jp/kurashi/shiminkatsudou/sogohoshoseido.html>

2 ボランティア活動保険 (全国社会福祉協議会)

ボランティアが活動中の事故により死傷された場合や、他人にけがを負わせたり、物を壊したこと等により法律上の損害賠償責任を負われた場合に保険金を支払う制度。加入には最低 350 円(基本プラン)必要(場合によっては減免されることがあります)。

- 色々な活動に個人で参加したい
- 団体としての活動に保険をかけたい(松戸市内外での活動)

[https://www.fukushihoken.co.jp/fukushi/front/council/volunteer\\_activities.html](https://www.fukushihoken.co.jp/fukushi/front/council/volunteer_activities.html)

他にも、活動分野に応じた補償制度の事例も各地にあります。一度、自分の活動に該当する補償・保険があるか調べてみるのもおすすめです!

**子ども食堂**  
子ども食堂における食中毒の発生、食堂運営中の事故など  
★子ども食堂保険

**学校**  
学校でのスクールガードなどの活動  
★川崎市学校安全ボランティア(スクールガード)保険/  
川崎市教育委員会  
<https://www.city.kawasaki.jp/880/page/0000115659.html>

**アウトドア**  
足場の悪い森での事故、のこぎりやチェーンソーを使用した里山保全、森林ボランティア活動

2022年度実施分の協働事業

- 日本語を母国語としない子どものための学習支援事業  
提 認定NPO法人外国人の子どものための勉強会  
担 国際推進課
- 料理教室を通じた父親の意識改革事業  
提 MAISON IZARRA Oyatsu labo \*T nature! (メゾンイザラおやつラボ\*テ ナチュレル)  
担 男女共同参画課
- 地域まるごとで孤育を予防する連携システム事業  
提 まつどでつながるプロジェクト運営協議会  
担 子ども政策課
- 「松戸の介護」プロモーション事業  
提 特定非営利活動法人 Smi le Resource  
担 介護保険課
- 町会・自治会の活動をPRして親しみをもってもらう事業  
提 できる街プロジェクト  
担 市民自治課
- 松戸のイメージ向上のためのコミュニケーション事業  
提 まつどのこもりかた。編集部  
担 広報広聴課 シティプロモーション担当室

NEW REGISTRATION

サポセン 新規届出団体 を紹介します!

- アートサイエンス松戸 ■松戸吟道会 ■ここまるヨガまつど
- マツジョ(松戸の読み書き困難支援の情報交換のための会) ■Team Nico
- おはなし アラカルト ■ぼっかぼか ■松戸が好きになる!歴史勉強会 ■親子のじかん
- 産後ケア ももちゃんの木

2022年6月1日~8月31日(届出順・敬称略)

※「この場合は対象になるの?」「ここはどうすればいいの?」等の詳細については、該当制度の実施先にお問い合わせすることを推奨しています。





# できないことが 増えると不幸なのか？



まつど市民活動サポートセンター  
コーディネーター  
松村大地

私は以前、病気や障がいと併せてつらさを  
対して、できなくなってしまうことを努力  
したり工夫したり誰かに頼ったりすること  
をサポートする（これは「リハビリテー  
ション」の考え方ですが）仕事を一杯やっ  
ていました。今でも少しですがその仕事をし  
つ、まつど市民活動サポートセンター（以  
下、サポセン）に勤めています。いづれの仕  
事でも年齢を重ねていくと心身に様々な変  
化が生じてきて、できないことに不安を感じ  
自信をなくし自らの選択肢を狭く持ってい  
まう方々に多く出会います。

今年春先、サポセンのインターンシップに  
参加した大学生と一緒に高齢者を取り巻く  
現状について調査をしました。その調査で  
分かった（気づいた）ことは、『それまでの  
人生で築いた価値観を、再構築する』とい  
う考え方です。これは「老年的越境」とい  
う機能の低下に伴う自律性の喪失から生じる  
絶望からの回復した状態を指すそうです。

サポセンの職員だからというわけではありませんが、  
老年的越境のような概念に触れると、改めて市民活動には  
人生を豊かにするエッセンスがたくさんあるなと気付かされます。  
こんなことをコラムとして皆さんにもシェアさせていただきます。

変化する心身を悲観し、できないことに目を  
向けるのではなく、その状態を受け入れて、  
その上でできることや楽しめることを見つ  
けていくマインドだと私は解釈しました。  
絶望からの回復とありますが、これはそん  
な簡単ではないはず。アイデンティティを  
自ら崩壊させることは自らを否定すること  
でもあると思うからです。自分だったらで  
きるのかな？自信がないなと考えてしま  
います。

ですが、市民活動に参加している高齢の  
方々を見ると、実に生き生きしています。  
大変さや面倒なこともあると思いますが、そ  
れ以上に活動に参加することで生きがいや  
楽しさ、役に立っている感覚が得られるの  
かと推察します。こういった姿と老年的越境  
の考え方を重ねてみると、高齢の方々が市民  
活動に参加することは価値観を再構築（もし  
くは磨かれた）するきっかけや、結果的にそ  
うなっている状態になるのではと感じます。



## サポセンニュースレター



### 第28号(2022年蛸号)

発行日：2022年8月31日  
(※年4回発行)  
発行元：まつど市民活動サポートセンター  
(指定管理者 NPO 法人まつど NPO 協議会)

「ぼっく」の  
主な設置場所 松戸市内の図書館、市民センター、公民館など各種  
公共施設の外、松戸駅などに設置しています。

### 「ぼっく」設置協力店

- Sampo Café (八ヶ崎7丁目)
- 子育てつながるセンター co-no-mi (本町13-27)
- 松戸観光案内所(本町7-3)
- やしま商店(本町6-3)
- 隠居屋 IN kyo-Ya (南花島中町196)
- はれの日サロン(常盤平3-11-1 西友常盤平店5階)
- いわぼんホール(岩瀬38)
- さんさん カフェ(仲井町2-6-4)
- omusubi 不動産 (総台1-21-1 あかぎハイツ 112)
- Coworking Space Flat Café & Bar (新松戸3-289)
- 昭和セレモニー松戸・矢切・北小金儀式殿 (千駄堀620-1・栗山19-4・殿平賀75-2)
- 松戸スタートアップオフィス (松戸1307-1 松戸ビル13F)
- みんなの居場所そらいる House ふらここ (五香4-53-1-101)
- まちかどアトリエ Neiro (松戸1117 ビラ松濤2F C号室)

「ぼっく」の配架にご協力いただけるお店・施設を募集します！

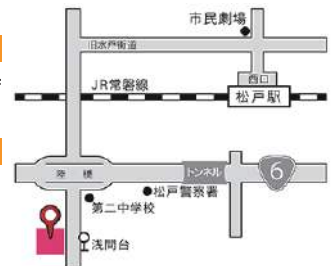
ニュースレター「ぼっく」を、お店や施設に配架していただけますか？  
ご協力いただいたお店・施設は、この欄で名称・所在地等をご紹介します。  
もちろん、無料でお届けし、部数もご要望に応じます。広告掲載も募集中です。詳しくは、  
まつど市民活動サポートセンターまで、お電話・メール等でお気軽にお問合せください。

## まつど市民活動 サポートセンター

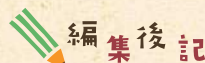
〒271-0094 松戸市上矢切 299-1(総合福祉会館内)  
TEL:047-365-5522 FAX:047-365-5636  
E-mail: hai\_saposen@matsudo-sc.com  
URL: http://www.matsudo-sc.com/  
facebook: https://www.facebook.com/matsudo.sc

開館時間  
月～土：9時～21時  
日：9時～17時

休館日  
第1・第3水曜、  
年末年始  
(12/29～1/3)



※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、施設利用に制限がある場合があります。詳細はサポセンホームページをご覧ください。



20年前…、図書館に毎日通い、本の虫真っ盛りなことも時代でした。地域の拠点は大事ですね。(お)